

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	世田谷区代田6-21-5
園名	守山保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

えがく・つくる・かざる

<テーマの設定理由>

園内にアトリエがあり、より効果的な利用をしたいと日頃から職員間で話していた。日常的に描画や制作活動を楽しみ様々な素材に興味を持ち、取り組む姿がある。アトリエやその他のスペースを有効的に活用し、子どもたちが主体的に、描いたり作ったりして楽しみ、出来上がった作品が飾られ見ってもらうことで、更なる意欲を高め、自己肯定感を育んでいく。

2. 活動スケジュール

- ・アトリエを使いやすいように整理し、様々な素材を用意する。
- ・素材を自由に使って、日常的に制作・描画活動を楽しむ
- ・アクリルお絵描きボード購入 アート施設見学職員研修
- ・制作活動企画を計画する
 - 7月 「クレヨン大作戦」(幼児) 園庭でクレヨンを使ったお絵描きを楽しむ
 - 10月 幼児クラス縦割りコーナーにて絵具・折り紙コーナーを設置
 - 3月 幼児クラス縦割りコーナーにてお絵描き(マーカー等)・折り紙他制作コーナーを設置
- ・他、日常的に制作活動や作品展示を行っていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

アトリエの整備(片付け・素材の配置の工夫等)・廃材(空き箱等)の回収・設置
保育室内の制作コーナーの設定・工夫
画用紙・絵具・クレヨン・マーカー・折り紙等の日常的に使う画材の購入
アクリルボードの購入・設置
廊下・保育室内・保育室前等、展示スペースの設定・工夫

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① 7月…クレヨン大作戦 園庭でクレヨンを使ってダイナミックなお絵描きを楽しむ
- ② 10月…幼児コーナー遊び 絵具を使ってお絵描きを楽しむ 折り紙を折って楽しむ
- ③ 3月…幼児コーナー遊び マーカーを使ってお絵描きを楽しむ 折り紙や制作を楽しむ

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ① 戸外で開放感があり、よりダイナミックな姿があった。個人で楽しむだけでなく、仲の良い友だち同士、共同で絵を描く姿があった。刺激を受けて自然と異年齢間のかかわりが生まれていた。
- ② 絵具を用いたことで色を混ぜたり、塗りたいのを楽しんだりしていた。水の加減が難しく、描くよりも、塗りたいの方が多かった。5歳児などは日々楽しんでいる経験もあり、筆の使い方に慣れている。
- ③ マーカーを使うことで、簡単に描くことができる良さがああり、絵具やクレヨンの時には苦手意識のあった児も参加する様子があった。お迎え時に掲示してある様子を見て親子の会話があった。
- ④ スズランテープを三つ編みしたり、箱制作をしたり、様々な種類の紙、画材を用いて子どもたちが主体的に自由に楽しむ姿が増えている。作った作品を飾ったり、持ち帰ったりして親子で会話したりしていくことで、次への意欲につながり、自己肯定感が育まれている。
- ⑤ アトリエの利用が増えてくると、子どもたちからも「アトリエ行きたい」という声が聞かれるようになった。保育室で制作をしながら「アトリエに空き箱あったよね」「アトリエに折り紙を取りに行こう」と子ども同士での会話もあった。若手職員からは、「画材の揃った棚をみるとワクワクする」「先輩の製作活動の導入や設定、遊び方がとても勉強になる」という意見もあり、保育士が子どもと一緒に楽しむ様子が多くあった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

アトリエを整備して使いやすくし、素材をそろえたことで、子どもたちが主体的にアトリエから素材を選べるようになった。「やりたいことをやりたいときに」できるようになり、子どもたちが選択して取り組む姿が増えている。自由にできることで、選んだことを短時間でも経験でき、またやってみようとの意欲につながることもあった。

活動の様子の報告と同時に、子どもたちの思いや、その子たちが「今、興味を持ち、やりたいと思っていることは何か？」など背景や様子、変化や成長などを職員間で共有し合った。子どもたちの遊びが広がり、意欲や自己肯定感が育まれていく姿に、保育士は喜びを感じ、アトリエ以外の場所でも製作活動が広がっていった。描画・工作・粘土など様々な選択肢の中から、好きなことを選んで表現することを楽しめるよう、継続して環境を整えていく。